

中学生海外派遣

海を越え新しい友達に出会う

国際理解教育の推進を図るため、東総圏域内で行っている中学生海外派遣に光中学校から土屋英己くん、越川純夏さんがシンガポールへ、国際ロータリークラブが行っている交換留学生に中岡里香さんがアメリカ・シアトルへ研修に参加し、さまざまな交流を体験しました。

シンガポール研修

2年 土屋 英己

7月28日から4泊5日で東総地区の中学生34名と一緒に、シンガポールへ行きまして、5回の事前研修を経て、他校の中学生とも仲



良くなり、期待に胸を膨らませて出発しました。

シンガポールでは、マライオンを見たり、ナイトサファリを楽しみ、スリ・マリヤマン寺院などのシンガポールの文化も見学しました。日本のお寺と少し違い、カラフルな建物で不思議な魅力を感じました。ウィットリー中学校にも行き、大漁節や折り紙などの日本の文化を披露しました。夜は夕食会に招待し友達もできましたが、もう少し英語が話せたらもっとよかったです。思い英語の大切さがわかりました。

この研修はとても良い経験になり、同時に中学二年生の最高の夏休みの思い出

になりました。

シンガポールへ行って

2年 越川 純夏

私はシンガポールへ行って自分なりにたくさんこのことを学んできました。

一番思い出に残っていることは現地の中学校、ウィットリー中との交流会です。

外国で自分と同年の子と楽しい時間を過ごせてすごく幸せでした。いざ英語で話そうとしても緊張してしまい、自分からあまり話しかけることはできませんでした。でも、それでも話そうとしてくれる現地の友達に感動することもありました。

シンガポールのシンボルであるマライオンを見たり、ナイトサファリで日本ではあまり見たことのない動物を見たり、初めて口にする食べ物を食べたりとたくさん思い出を作ることができました。

一番良かったのはこの研修を通して出会えた他の市町の友達だと思います。この研修に参加して本当に楽しい時間を過ごせました。



アメリカに行つて

3年 中岡 里香

私は7月29日から8月26日まで、国際ロータリーの交換留学生としてアメリカのシアトルへ行きました。

私は交換留学生として、日本の文化、遊びをいっぱい教えてみようと思っていました。しかし、到着して早速言葉の壁にぶつかりました。私は伝えたい事があったのですが、イントネーションが違うのか、伝わらずに困ってしまいました。しかし、なんとか身振り手振り

とで伝えることができ、コミュニケーションをとることができました。これから毎日こんな生活なのかと思うと、正直不安で一杯でした。

た。

一方、ホストファミリーの家に到着すると、みんな歓迎してくれ、多くの不安は消え、アメリカでの生活に希望がみえてきました。その後も、いろいろとありました。一日目はあつという間に過ぎていってしまいました。

翌日、かなり疲れ果てていた私を気づかせてくれたのか、朝の予定は入れずに夜にシアトルのシンボルタワーであるスペースニードルへ連れていってくれました。夜だったので高層ビル

の明かりや遠くに見える民家の明かりが、とてもきれいでした。早速写真にしたいと思い、使い切りカメラで撮ってみたのですが、現像してみると、スペースニードルが無く、がっかりしました。

そして最も私が、行きたかったイチローの試合も観戦できませんでした。また、いろいろなショッピングモールやスーパーにも行って、面白い物が大好きな私にとって

は幸せな日々でした。しかし、初めは相手の行きたい所を尊重して行動していたため、つまらなかつたです。

この事で、日本人が遠慮が美徳だと思っている事はアメリカでは通用しない事、家族や友達の存在の大きさがわかりました。文化や習慣の違いを理解する事はとても大切だと思い、私にプラスになった事を嬉しく思います。

